

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議

カムイワッカ部会（第20回）議事録

日時：2023年12月19日（火） 13：30～16：00

場所：斜里町公民館ゆめホール知床 公民館ホール

議題：

1. カムイワッカ部会設置要綱の改正について
2. 2023年度 カムイワッカ地区の運用状況と各事業の実施結果について
3. 道道知床公園線における工事の進捗について
4. 2024年度の事業方針について
5. その他

配布資料

- 資料1 カムイワッカ部会 設置要綱（一部改正）
- 資料2 2023年度 カムイワッカ地区の運用状況と各事業の実施結果について
- 資料3 道道知床公園線における工事の進捗について
- 資料4 2024年度カムイワッカ地区 事業方針（案）と検討スケジュール

- 参考資料1 カムイワッカ湯ノ滝のぼり パンフレット
- 参考資料2 カムイワッカ湯の滝利活用検討事業のアンケート結果について
- 参考資料3 2024年度 祝休日カレンダー
- 参考資料4 第19回カムイワッカ部会 議事録

出席者名簿：

機 関 名	職 名	氏 名
【地域関係団体】 13名		
知床自然保護協会	理事	綾野 雄次
斜里山岳会	事務局長	笠井 文考
羅臼山岳会		欠席
北見地区バス協会 斜里バス株式会社	代表取締役	下山 誠
株式会社斜里ハイヤー		欠席
NPO 法人 知床斜里町観光協会	事務局長	新村 武志
知床温泉旅館協同組合		欠席
ウトロ自治会	会長	米澤 達三
知床ガイド協議会	会長	岡崎 義昭
知床ガイド協議会	事務局	若月 識
知床ガイド協議会	会員	畑谷 雅樹
知床ガイド協議会	会員	山崎 誠
一般財団法人 自然公園財団 知床支部	主任	向山 純平
株式会社ユートピア知床	代表取締役	櫻井 晋吾
株式会社ユートピア知床	専務取締役	梶原 裕一
ウトロ地域協議会		欠席
公益財団法人 知床財団	事務局長	高橋 誠司
【関係行政機関】 2名		
国土交通省 北海道開発局 網走開発建設部 技術管理課	課長補佐	杉尾 幸宣
北海道運輸局 北見運輸支局	首席運輸企画 専門官	山本 祐幸
北海道警察 北見方面斜里警察署 地域交通課		欠席

機 関 名	職 名	氏 名
【事務局】 20 名		
環境省 ウトロ自然保護官事務所	首席国立公園 保護管理 企画官	家入 勝次
環境省 ウトロ自然保護官事務所	国立公園利用 企画官	井村 大輔
環境省 ウトロ自然保護官事務所	自然保護官	加倉井 理佐
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	署長	早川 博則
林野庁 北海道森林管理局 網走南部森林管理署	森林技術指導官	清水 亜広
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	所長	川崎 文圭
林野庁 北海道森林管理局 知床森林生態系保全センター	専門官	寺田 崇晃
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	道路課長	島 豊
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室道路課	主査(道路)	塩見 秀之
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	主査(道路第一)	谷 暢浩
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部事業室事業課	主任	近藤 尚行
北海道 オホーツク総合振興局 網走建設管理部斜里出張所	主査(管理調整)	松本 陽一
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 くらし・子育て担当	部長	永安 芳江
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 知床分室	主幹	椿原 匠
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 自然環境係	係長	亀崎 学
北海道 オホーツク総合振興局 保健環境部 環境生活課 自然環境係	主事	綾部 武洋
斜里町役場 総務部 環境課	課長	結城 みどり
斜里町役場 総務部 環境課 自然環境係	係長	吉田 貴裕
斜里町役場 産業部 商工観光課	課長	河井 謙
斜里町役場 産業部 商工観光課 観光係	係長	岩渕 聖也
【運営補助】 4 名		
公益財団法人 知床財団 事業部 (公園事業担当)	参事	秋葉 圭太
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)	係長	片山 綾
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)		茂木 瑞稀
公益財団法人 知床財団 事業部 公園事業係(斜里)		米田 紗衣

【開会あいさつ】

環境省（井村）：開会に先立ち事務連絡を申し上げる。本会議は公開での実施であり、議事録は後日 web サイトで公開する。記録のため、発言の際はマイクを使用し、冒頭に氏名と所属を述べていただきたい。本日の会議は 16:00 の終了を予定しており、適宜休憩を挟む予定だ。配布資料の確認は割愛するが、不備等あれば事務局へ申し出ていただきたい。開会に先立ち事務局を代表し、ウトロ自然保護官事務所の家入より挨拶申し上げる。

環境省（家入）：本日は年度末のご多忙な折、参集いただき感謝申し上げる。カムイワッカ部会は、カムイワッカ湯の滝の利用のあり方やマイカー規制、交通アクセスについて協議する場として継続されている。近年ではカムイワッカ湯の滝における 1 の滝以奥の再利用にむけた試行事業の取組みも始まり、部会の重要性は一段と高まっている。今年度は事前予約制を導入し、補助員の配置などの安全対策を行ったうえでの利用を試みた。また目的地であるカムイワッカ湯の滝の利用方法が大幅に変更されたことからマイカー規制やシャトルバスの運行や期間についても変更して行った。本日は今年度の実績や結果を基に、来年度事業について提案する予定だ。忌憚のない意見をお願い申し上げる。

環境省（井村）：それでは議事に移る。議事および配布資料は議事次第に記載されている通りだ。司会進行は斜里町役場の結城課長にお願いする。

【議事】

1. カムイワッカ部会設置要綱の改正について

資料 1 について環境省（井村）が説明

斜里町（結城）：この点については、第 19 回カムイワッカ部会にて既に承認をいただいているが、要綱の改正について皆様から承認をいただいてよろしいか。

一同：（了承）

2. 2023年度 カムイワッカ地区の運用状況と各事業の実施結果について

資料2について斜里町（岩渕・吉田）、環境省（加倉井）が説明

斜里町（結城）：P. 4～8のカムイワッカ地区の運用状況について質疑はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：後程、全体を通して気付いた点があれば教えてほしい。p. 10～20のカムイワッカ湯の滝利活用検討事業について質疑はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：p. 11の利用料金についてだが、バス利用のみの小人料金は設定されていたのか。

斜里町（岩渕）：小人の料金についてはp. 11に記載されている大人料金の半額だ。

知床ガイド協議会（若月）：マイカー規制期間の小人は、アクティビティに参加するよりバス乗車のみの方が高いことになる。小人のバス利用のみの料金は650円で間違えないか。

斜里町（河井）：ご指摘の通りだ。事務局としても小人の料金に逆転現象がおきていることに後から気づいた。次年度は改善が必要だと認識している。

知床ガイド協議会（若月）：子供に配慮するというのはとても重要だ。家族連れの利用者を増やすという視点でも、小人のアクティビティ料金が500円というのは素晴らしい。採用されないかもしれないが、現状のアクティビティ料金を基準にバス料金を設定して欲しい。

斜里町（河井）：アンケートにも料金に関する設問を設けた。参考資料2のp. 6の通り、大人の料金については概ね適当という意見が得られた。小人の料金については「とても安い」と「安い」が全体の3分の1を占める結果となった。小人の料金は意図的に安く設定したが、アンケートでも予想通りの結果が得られた。

斜里町（結城）：その他、質疑はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：p. 15に日別の利用実績について、利用人数が最も多かった日は208人と記載されているが、利用時間を各枠へ分散させたという理解で良いか。時間枠

に対して予約人数を超えることはあったのか。

知床財団（秋葉）：予約サイトのシステム上で1時間30名までしか予約が取れない仕組みになっている。おそらく希望している時間枠が満席であれば、他の時間に予約をしている。良く言えば利用の分散が図られているが、利用人数の上限が決められているため希望の時間に予約出来ない利用者もいたと思う。現場の運用としては、予約時間より早く来場した場合も予約時間まで待ってもらうという対応ではなく、状況に応じて柔軟に受付を行った。

斜里町（結城）：その他、質疑はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：現地をガイドしていた立場としても今年度大きな事故やトラブルなく運用出来たことは良かったと思っている。しかし大きな事故は小さなトラブルの積み重ねの結果発生する。現地で起きた小さなトラブルなどのヒヤリハット情報の共有がガイドへされていなかった。知床五湖のヒグマ活動期では他の登録引率者のヒグマ遭遇事例も共有されている。カムイワッカにおいてはこうした情報が透明化されていない。情報共有体制はどうなっていたか。

斜里町（河井）：ひとつひとつの事例に対する詳細はこちらで把握している。全ての事例が既にまとまっているので別途共有させて頂く。

知床ガイド協議会（若月）：現地補助員が3名体制という人数は適当だと思う。今年度、補助員の能力向上を目的とした応急処置等の講習はやったのか。また来年度以降そういった講習を行う予定はあるか。

斜里町（河井）：今年度の補助員は主に知床財団と自然公園財団のスタッフが対応した。各組織で一定程度救急救命講習等は行っているが、この事業の枠組みでは実施していない。怪我への対応は、主に擦り傷程度の処置を想定しており、それ以上の怪我については消防に引き継ぐという考え方だ。消防は個別に訓練を行っていた。補助員としてどういった対応ができるかについては次年度以降改めて検討したい。今年度の受傷事例は30件であったが、来年度以降この件数をいかに減らすかという事も課題だ。

知床ガイド協議会（若月）：今年度、受傷者が発生した際に現場に居合わせたのが知床財団や自然公園財団ではない職員だったため、現場に居合わせたガイドが対応した。ガイドも一緒に行っている事業のため、今後応急処置などの講習を実施するのであれば一緒にやらせてほしい。またトラブルについても共有をしながら事故なく運用していき

いと思っている。

斜里町（結城）：その他、質疑はあるか。

知床自然保護協会（綾野）：p. 17の「トラブル事例」にヒグマ目撃、受傷、落石が含まれている。受傷事例は実際に怪我を負っているためトラブルだが、ヒグマ目撃や落石の事例は、人身事故や怪我といった結果が生じていないため、これらは「ヒヤリハット」の区分ではないか。ヒグマの目撃についてもカムイワッカ地区は鳥獣保護区でありヒグマがいて当たり前の場所であり、目撃自体はトラブル事例ではない。目撃されたヒグマの中で人に危害を加えようとしたり、物を取られたといった事例があればヒヤリハットに含む必要がある。このまま記録を残すと、カムイワッカ事業の中でこれだけトラブルがあったということになってしまう。目撃そのものをトラブルと区分するのはおかしい。

斜里町（河井）：ご指摘の通りだ。ヒグマの目撃自体はトラブルではないと認識した。次年度以降、集計方法や情報共有にあたって検討させて頂く。

斜里町（結城）：その他、質疑はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：質疑が無いようなので次に進む。P. 22～23の路線バス増便事業について質疑があれば挙手を願う。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：質疑が無いようなので次に進む。P. 25～28の知床ディスプレイキャンペーンについて質疑はあるか。

知床自然保護協会（綾野）：乗用車利用者への啓発ツールである葉についてだが、車に乗っている利用者は比較的安全だが、徒歩や自転車による利用者がかなり危険だと考えている。現場ではクラクションを鳴らす人や車の窓から大声を出す人がおり、歩行者が大変危険だ。次回増刷時には窓を閉めようという文言と同時にクラクションを鳴らさないと大声を出さないという文言を追記してほしい。

環境省（加倉井）：ご意見感謝申し上げます。次回、増刷の際に検討したい。

斜里町（結城）：その他、何かあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：資料2について全体を通じて質疑はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：今年から大きく運用方法が変わったが、利用実績等を踏まえた事務局内での評価を教えて欲しい。

斜里町（河井）：利用人数については補助金等の計画上の目標人数である6,000人を上回った。予約の動きは当初鈍かったものの、7月22日より当日予約を開始したことで参加しやすくなり、予約も上向いた。利用者の満足度については、過年度の試行事業と同様に極めて高かった。料金については、地域説明会で高いとの意見もあったが、アンケート調査の結果などを踏まえると概ね妥当という評価だと認識している。一方、参加できなかった、参加しなかった利用者層が一定数存在すると考えられる。こうした利用者の意見が把握できていないことは課題だ。今後、現場の混乱を防ぐための人数制限などの制約を踏まえつつ、どのように参加しやすい仕組みに成熟させるのか皆様の意見を頂きたい。来年度は利用開始時から当日予約が可能となり、広報も早めに実施する予定だ。Webサイトのシステムもさらに改善されるため、10,000人程度の目標設定は可能と考えている。この事業の評価については初年度であり、比較対象もないため、むしろ現場に関わっていた皆さまからの評価も伺いたい。

知床ガイド協議会（若月）：初年度としてはスムーズに運用できており、満足度も高い。利用人数もかなりの実績だ。9,000人程度の目標であれば数年で達成すると思う。改めてカムイワッカは魅力的な場所であり、4の滝まで行ける事業を実施したことはガイドの立場としても素晴らしいことだと思う。一方で観光全体の入込みにも関わるが、参加しなかった利用者がどう感じるかが重要だ。資料2を見る限り、予約者しか現地へ行っていないようだ。沢内で一部嚴重な整備をして全ての利用者が楽しめる自由利用の場所を設ければシャトルバスの利用者も増えるのではないかと思う。ただ予算も必要になるので、今後皆様と検討していきたい。

斜里町（河井）：ご意見感謝申し上げます。現段階ではカムイワッカ湯の滝の運用方法を中心に議論しているが、中長期的には硫黄山登山道を含めたカムイワッカ地区全体の利活用の検討が必要だ。知床全体としても様々な課題がある中でひとつずつ解決していく必要がある。まずはこの会議でカムイワッカの魅力向上に向けた意見交換をしたいと

思っている。

斜里町（結城）：その他意見等はあるか。

一同：（質疑無し）

知床自然保護協会（綾野）：この資料の中で当日受付の割合は出ているのか。

斜里町（河井）：資料の中には入っていないが、最終的にはおおよそ22%が当日受付という結果になっている。おそらく天候等を見て、全体の50%程度の利用者が前日と当日に予約をしている。

知床自然保護協会（綾野）：当日予約の割合は出した方が今後の参考になると思う。日別の利用実績で8月26日の利用者数が伸びているのは、今年度8月23日から知床五湖の地上遊歩道が閉鎖していたため、行く場所を失った利用者がカムイワッカへ行ったと予測される。そのあたりの細かいデータも出ていれば非常に良い。

斜里町（河井）：利用者がいつ予約をしたかはデータが残っているのでそのあたりも可視化したい。

斜里町（結城）：質疑なければ議事2を終了する。

3. 道道知床公園線における工事の進捗について

資料3について網走建設管理部（塩見）が説明

斜里町（結城）：ご説明、感謝申し上げます。現在示している工事予定は、あくまで現時点の予定であり、予算の配当状況によって変更する可能性があるということだ。皆様から何か質疑はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：工事終了後は、バス等の転回場はどこを想定しているか。

網走建設管理部（塩見）：硫黄山登山口正面の平地であり、現在、工事関係者のプレハブを設置している場所だ。

知床ガイド協議会（若月）：今後、魅力的な園地をつくるにあたり、利用可能な範囲が増えた

らよいと考えているため、工事終了後の供用区域を知りたかった。

斜里町（結城）：質問がなければ議事3を終了する。ここで一度休憩を挟み、15:00より議事を再開する。

<休憩>

斜里町（結城）：それでは議事を再開する。議事4の2024年度の事業方針について斜里町岩淵係長より説明する。

4. 2024年度の事業方針について

資料4について斜里町（岩淵）が説明

斜里町（結城）：カムイワッカ湯の滝利活用検討事業と交通アクセス事業の大きく2つの事業内容について意見をいただきたい。説明の通り、次年度は今年度の課題を踏まえて改善しつつ、全体の枠組みとしては今年度の事業内容を踏襲して取組みたいと考えている。しかし資料の通り、検討中の内容が多数ある。本日、皆様から意見をいただき、次回のカムイワッカ部会までにまとめたい。どなたか意見等はあるか。

知床財団（高橋）：来年度は混雑する期間に合わせてマイカー規制期間を29日間から10日間に短縮する予定であると理解した。一方でマイカー規制は混雑回避のみならず、乗り換えタイミングでの制度周知や、野生動物との軋轢回避、公園全体のゼロカーボンに寄与するなど副次的な効果もある。マイカー規制期間を短縮するのであれば、利用方法を知らずに現地へ行く利用者を防ぐため、周知の強化が不可欠であり、当財団としても協力したい。また路線バスの増便事業は来年度実施しない予定との説明だが、今年度のデータでは6連休で500m超えの渋滞が何日か発生している。来年度のお盆時期は9連休に相当するため、知床自然センター～知床五湖間については増便をすべきだ。

斜里町（吉田）：路線バスについては資料4のp.2の通り、今後の動向によっては運行も考えているため、いただいた意見を参考に事務局内で検討させていただく。

斜里町（河井）：マイカー規制期間の考え方について回答する。今年度はアクティビティエリアが広域になり、現地での滞留時間が長くなることが予測されたため道路交通法に影響しない範囲でマイカー規制期間を29日間に設定した。今年度の取組みとして、マイカー規制期間外も知床五湖ゲートに警備員を配置し、予約をしていない利用者へ適

切な案内を行うことで現地の混乱は生じないということが明らかになった。現地の混雑を未然に防ぐという目的においては、来年度は運行期間を短くすることができるかと判断し、10日間に設定した。バス運行の費用を利用者の負担で賄う自立的な運行体制が原則であり、多数の利用が見込める期間に限定せざるを得ないのが現状だ。一方でご指摘通り、シャトルバスには様々な役割や機能があり、別視点での検討の必要がある。今後もカムイワッカ部会で検討したい。

環境省（家入）：カムイワッカ湯の滝活用検討事業におけるマイカー規制の考え方については河井課長が申し上げた通りだ。一方で高橋事務局長からのご指摘通り、野生動物との軋轢の問題については科学委員会やヒグマワーキングでも議題に挙がっており、環境省としても取り組まなければいけない課題だと認識している。来年は知床国立公園の指定から60周年、令和7年は世界遺産登録から20周年だ。環境省では地元の自治体や知床財団、事務局を交えながら2か年にわたって周年事業を行う予定だ。事業では、知床の自然に触れ、よりよい感動を与えるためのルールをレガシーとして遺したいと考えている。現在準備を進めているところであり、周知活動を含め公園利用のルール全体の話はそちらで進めたいと考えている。

斜里町（結城）：マイカー規制をはじめとしたアクセスコントロール事業は、混雑対策のみならず野生動物の軋轢対策や斜里町として登録を目指しているゼロカーボンパークにも関わり、取組まなければいけない課題だ。一方で採算性も事務局としては大きな課題だと認識している。この点については町だけで取り組むには限界があり、関係行政機関との協力が必要不可欠だ。先に環境省から周年事業として何かしらの協力がいただけるという力強い言葉があったため、こうした事業も踏まえて検討したい。その他、何かご意見はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：お盆の10日間は既に混雑が予想されるので、シャトルバスの運行経路を知床五湖経由にしてはどうか。バスに人が乗り切れないなど運用面で課題があるかもしれないが、個々でバスを運行するとコストが高くなり、それによって利用者の負担も大きくなる。予算がつくのであれば一本化すればよいのではないかと。

斜里町（河井）：これについては一長一短だ。知床五湖に寄ってからカムイワッカに行く利用者がある一方で自然センターから知床五湖を目的に行く利用者もいる。カムイワッカの予約者に考慮するのであれば、より確実なのはバスを専用化することだ。若月氏のご指摘通り、確実に混雑する日は知床五湖を経由するというのは合理的だ。しかし知床五湖で車を乗り捨てないで欲しい等のルールを広く周知できるというのが前提条件となる。初年度はそういった混乱を防ぐために直行バスとした。将来的には知床五湖経由

でもうまく運用できる可能性がある。公園全体とカムイワッカ単体のアクティビティの設計バランスをどのように保つかに尽きる。先程、環境省も別途検討するということがあったので状況を聞きながらより良い選択をしたい。

知床ガイド協議会（若月）：今年度、シャトルバスを利用する人の中で湯の滝の予約時間をバスの乗車時間と思っている利用者がいた。可能であれば、バスの出発時刻を予約するという方法もある。その方が効率的にバスを運行できると思うので検討してほしい。

斜里町（河井）：ご指摘の通りだ。今年度は2台のバスを運行し、45分間隔で1日11往復していたが、30分間隔で運行しようとするればバスを1台増やさなければいけない。1時間間隔での運行だと行動の自由度が狭まるデメリットがある。来年度の運行体制については、利用者の現地滞在時間のデータやバスの運行間隔に関するアンケートの回答を基に次回の会議までに提示する。

斜里町（結城）：その他質疑はあるか。

一同：（質疑無し）

斜里町（結城）：ユートピア知床より何か意見はあるか。

ユートピア知床（櫻井）：今年度の実績を踏まえて、運用面で来年度修正する点や現時点で計画しているものがあれば教えて欲しい。

斜里町（河井）：細かな改善すべき点は多数ある。今年度、予約者に対してウォーターシューズを推奨していたが、ウォーターシューズでも種類によっては滑るものがあるということが明らかになった。最適な靴を事前に案内することで転倒や怪我を予防できる。こうした装備の準備を仕組みの中にどう組み込むかが課題だ。その他にも料金の妥当性の検証やWebサイトの見直し、バスの運行方法などが挙げられる。またシャトルバスの運行がない期間は、公共交通機関によるアクセス手段がない状態だ。知床五湖からカムイワッカ間でのE-bikeの運用も検討したい。現地補助員を常時3名配置する体制の構築も課題点だ。

斜里町（結城）：今年度、現地の対応に携わっていた自然公園財団より何か意見はあるか。

自然公園財団（向山）：今年度、自然公園財団も現地の補助員として職員全員で協力させていただいた。課題は多数あるが、会議の中でもあった通り利用者の満足度は非常に高く、

当財団としても事業に携わり、知床の観光に寄与できたことに感謝申し上げます。アクセスの問題については、渋滞対策や知床五湖等の各施設とのバランスをとる必要があると感じている。来年度については検討事項がいくつかあるが自然公園財団としては知床の観光全体がより良いものになるように事業も一緒に運用出来ればと考えている。

斜里町（結城）：ご意見感謝申し上げます。斜里山岳会より何か意見はあるか。

斜里山岳会（笠井）：令和7年に落石対策工事が終了した際には、硫黄山登山口の利用や登山者の駐車車両をどうするか気になっているが、急いで決める必要はないと考えている。

斜里町（結城）：新村局長より何か意見はあるか。

観光協会（新村）：来年度、観光動態調査や消費動向調査を観光協会の事業として実施する予定だ。知床五湖やカムイワッカの利用に関する設問を加えられるか業者と相談しながら引き続き協力したい。

斜里町（結城）：ご意見感謝申し上げます。その他、全体を通して何か意見はあるか。

斜里町（河井）：今年度から現地にインターネット環境を整備したことで受付等が迅速にできるようになった。また事業後半の2週間弱は気象観測器を設置し、現地の天候をリアルタイムで把握できる体制を構築した。いずれも電力供給が課題であり、大型のポータブルバッテリーを使用することで対応した。

知床ガイド協議会（若月）：現時点で来年度のマイカー規制期間は10日間の実施ということで良いか。以前実施したバスデイズでは現地に来るまで実施を知らず、苦情を言う利用者がいた。今後も何か変更して実施するのであれば地域や一般利用者へ早めに説明や周知をしてほしい。

斜里町（結城）：その他、全体を通して何か意見はあるか。

知床ガイド協議会（山崎）：今年度の実績を踏まえて今後の方向性について確認したい。今年度は日本人利用者が5,544人、外国人利用者が505人であった。インバウンドに対する目標や指標があれば教えて欲しい。今年度、海外のお客様よりカムイワッカに行きたいという声は多かったが、アクセスや予約等の利用方法が分からないという意見も多かった。今後海外の利用者に対応した周知をする必要があると感じたので質問した。

斜里町（河井）：現時点ではターゲットは絞らず、アクティビティを希望する利用者は国籍問わず利用していただきたいと考えている。また今年度は外国人利用者の割合は8.3%であったが、この時期の観光全体の入込みに対する外国人利用者の割合とほぼ同等だ。Webサイトも外国人利用者にご覧いただけるよう多言語対応をしている。ただご指摘の通り、周知が不足している部分もあるため、ガイドや宿泊事業者などに協力を仰ぎながら取り組みたい。また今年度の実績より、英語圏以外から多くの利用者が来ていることが明らかになった。自動翻訳機能などを使用するなどして工夫したい。

知床財団（高橋）：今年度、現地に補助員を3名配置していたが、自然公園財団からの協力があって実現できた。費用負担の問題も含め、今後も現地に3名を配置し続けられるのが課題だ。当財団職員も20名以上がこの事業に携わりながら現地を運用してきた。最低限の管理や安全対策のために人員は必要だと思うが、ヘルメットやシューズレンタルなどのサービスを最奥地で実施するのは公園利用のあり方に逆行するのではないか。中長期的には各拠点にコストと人員をかけて運用するより、手前にある知床自然センター等に機能を集約し、レンタル等のサービスを一括して実施する仕組みが必要だ。来年度から運用するのは難しいが、今後はカムイワッカ単体で考えるのではなく公園全体の利用システムの観点で考える必要があると感じた。

斜里町（結城）：その他、何か意見はあるか。

知床ガイド協議会（若月）：公園全体の利用のあり方としては、リスク管理と利用人数の獲得を両立させるのは難しい。カムイワッカも知床五湖のようにリスクを承知で利用してもらえるエリアと自由に利用できるエリアでゾーニングをした方が観光地的には良い。自由に利用できるエリアがないと、高橋事務局長の案は実現しづらい。

斜里町（結城）：今年は初年度ということもあり、3人体制で運用していたが人員確保の課題について意見があった。ご指摘通り、単年度で検討するのではなく、入口にサービスや情報提供を集約させ、持続可能な体制を整える方法を検討していきたい。本会議では、来年度のカムイワッカ湯の滝の利用期間を7月1日から9月30日の92日間で提案させていただいた。早めに周知広報するため、本会議にて承認を頂きたいがいかがか。

一同：（承認）

斜里町（結城）：異論はないという事で理解した。2024年度のカムイワッカ湯の滝利活用検討事業の実施期間は7月1日から9月30日までとする。次にマイカー規制期間について

てだが、事務局からは8月9日（金）から8月18日（日）の10日間で提案させていただいた。皆様から承認をいただきたいがいかが。

斜里町（河井）：少し補足させてほしい。今年の3月の地元向け説明会で、旅行を予定している利用者のためにカムイワッカ湯の滝の利用期間とバスの運行期間は早めに周知してほしいとの意見が出ている。そのためこれらの期間だけでも本会議で決定し、周知したい。

斜里町（結城）：シャトルバスの運行期間について事務局案の通り承認をいただけるということで良いか。

一同：（承認）

斜里町（結城）：感謝申し上げます。来年度のシャトルバスの運行期間は8月9日から8月18日とする。網走建設管理部へ確認だが、道道公園線の知床五湖ゲート以奥の供用期間については5月31日から10月1日で良いか。

網走建設管理部（塩見）：提案の内容でよい。

斜里町（結城）：道路の供用期間についても承認をいただいた。議事4を終了し、議事5に移る。事務局からは特段無いが、会場の皆様から何かあるか。

知床ガイド協議会（若月）：来年度の期間については決定した通りが良いが道路の開通が6月1日なのに対し、カムイワッカ湯の滝の利用は事実上7月1日からである。1か月早く道路が開通していても意味がないように思う。ガイドとしては湯の滝の利用期間を延ばせるのであればぜひ今後検討してほしい。カムイワッカ湯の滝の利用を7月からとしている明確な理由があるのであればそれに従う。

斜里町（河井）：設定されている利用期間について説明させていただく。地質の専門家から6月は融雪時期であり、落石の恐れが高いと指摘を受けた。また、研修の実施や準備を考えて7月からとしている。ただガイド同行やその他条件次第では利用期間を前倒しできる可能性はあるため、今後検討したい。まずは試行事業として安定した実績を作ることが重要なため来年度は7月1日からとさせてほしい。また硫黄山登山道については6月から利用可能となっているため、道路が開通していることには意味がある。

斜里町（結城）：その他意見はあるか。

一同：(特になし)

斜里町（結城）：長時間にわたって会議に出席いただき、感謝申し上げます。皆様から多数の意見をいただきました。それらの意見を参考に事務局内で協議し、次回の会議で皆様へ提案する。本日の議題は以上だ。マイクを進行へ戻す。

環境省（井村）：次回の会議については改めて日程調整をする。以上で第20回カムイワッカ部会を閉会とする。

以上